

令和6年度 学校教育の努力点とその推進計画

研究主題

一人一人の「学びたい！」を叶える授業を目指して
～ JJT（神宮寺自由進度タイム）を取り入れることを通して ～

1 研究のねらい

本校では、児童の「学びたい！」という思いを引き出す方法や、その思いを基に、主体的に追究できるような授業展開を模索し、授業実践を重ねてきた。昨年度は、児童一人一人が興味・関心や学習ペース、習熟度に応じて学ぶべきことを捉え、その達成に向けて、自分が計画した学習の方法やペースで学ぶ児童が育つことを目指し、努力点研究を進めてきた。R3・4年度センター研究の「自由進度学習」に着目し、本校児童の実態を踏まえてアレンジした「JJT(神宮寺自由進度タイム)」を、学習内容の定着に効果的だと考えられる単元に取り入れた実践を行うために、自由進度学習の在り方や授業における教師の役割について、教職員同士で対話を重ねながら教師観のアップデートを図ってきた。そして、10本の授業実践を行うことができた。

授業実践や努力点部会の様子、実態調査の結果から、新しい取り組みであったJJTが教職員と児童の双方に浸透し、そのよさを実感できたことは、大きな成果であった。

研究2年次となる本年度は、昨年度の努力点部会と実態調査の結果を踏まえて、以下の2点を重点課題として設定する。

- ・ 低・中・高での発達段階に適したJJTの在り方や目指す児童像について系統的に考え、実践を通して明らかにすること
- ・ 児童自身が、JJTにおける「計画→実行→振り返り→計画→…」の学習のサイクルを目標達成に向けて回すことができるための振り返りの方法について考え、実践を通して明らかにすること

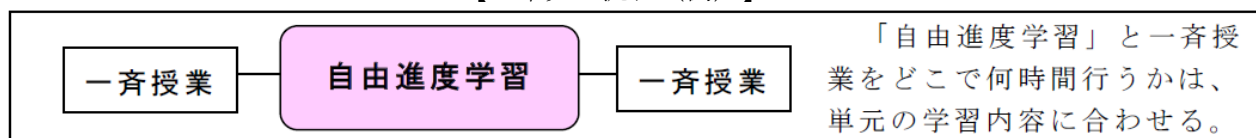
これらの課題を解決し、児童にとってより充実した JJT の実現につなげ、学習の進め方を考えて取り組み、その中で学ぶ楽しさや充実感・達成感をくり返し味わうことができるようにすることで、将来にわたり、自律して学び続ける児童を育成するといった本研究の最上位目標の達成を目指していきたい。

2 研究の内容

(1) 「自由進度学習」とは（R3・4年度センター研究より引用）

「自由進度学習」は、子どもたちの興味・関心や、学習のペース、習熟度等に応じて、子どもたちが自分に必要な課題や学習活動を選択して取り組むことができる学習と定義する。「自由進度学習」では、子ども一人一人が学習計画を立て、それに沿って、個別に、時には協働しながら学習を進めていく。

【1単元の流れ（例）】



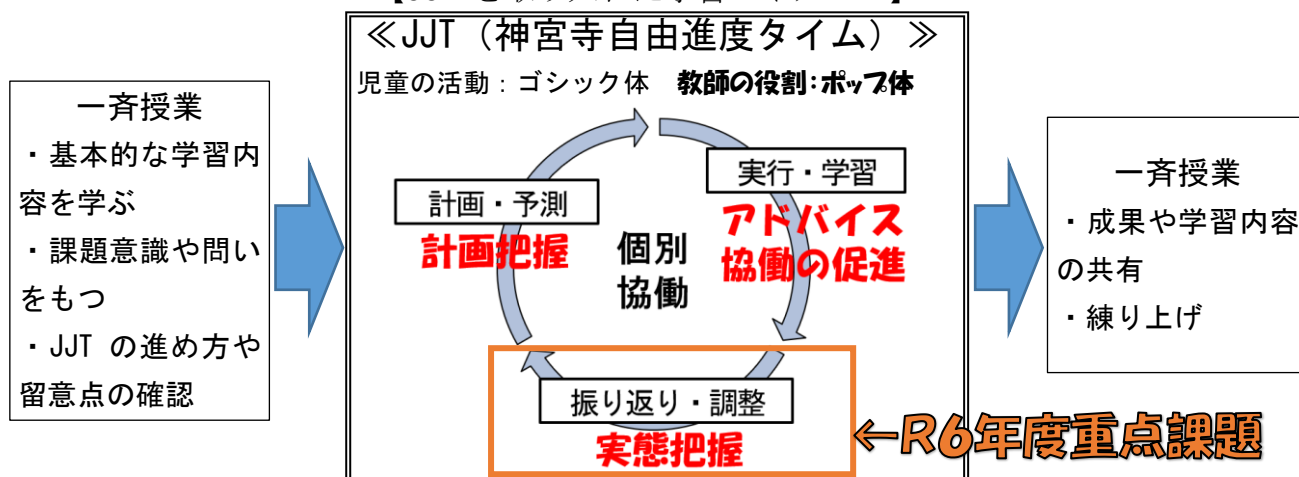
(2) 「自由進度学習」の型（R3・4年度センター研究より引用）

センター研究では、子どもたちの何に対応し、子どもが何を選択できるようにするかという観点で、次の三つの型を提案している。

- 課題選択型……興味・関心や自身の立てた問いなどに対応し、課題を選択
- 時間設定型……学習のペースに対応し、それぞれの学習活動に掛ける時間を設定
- 目標設定型……習熟度に対応し、学習に取り組む目標を設定

(3) 「JJT」を取り入れた学習のイメージ

【JJTを取り入れた学習のイメージ】



(4) 発達段階に適したJJTの在り方や目指す児童像

- 低学年・・・自ら課題を設定して学習に取り組み、その取り組みに対して自ら振り返ることができる児童
- 中学年・・・自ら課題を設定し、学習計画を立てて自分のペースで学習を進めることができる児童
- 高学年・・・単元を通した課題を自ら設定して学習計画を立て、学習計画に基づいて学習を進め、自己と他者の評価を取り入れながら振り返を行い、進度に合わせて計画を修正しながら学習することができる児童

(5) 検証の方法

実態調査を行うことで、JJTを取り入れた授業実践が、児童の「学びたい」という思いを叶えることにつながったかどうか、また、最上位目標に近付くことができたか、質問紙調査や実態調査によって検証する。

＜調査内容＞

- ・ JJTは、自分の「学びたい！」という思いをかなえることにつながりましたか。
- ・ JJTは、自分の興味・関心や学習ペース、習熟度に合った学習を実現する時間となりましたか。
- ・ JJTでは、目標達成にせまることができましたか。
- ・ JJTに取り組んだ振り返り（よかったこと・もっとこうしたかったこと）を書きましょう。

3 推進の方法

